

『キリストにある希望』 ローマ人への手紙5章1-2節 2019.1.13 聖日礼拝説教より

『ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。』
ヘブル人への手紙 4章 16節

❶キリストによって…「イエス様を信じて義と認められ、主イエス・キリストによって神との平和を持ち、キリストによって、今私たちの立っているこの恵みに導き入れられた」。私たちに与えられた救いの恵みは全てイエス・キリストを通して与えられた。私の功績などカケラもない(ヨハネ 14:6)！聖書が伝えるキリストの誕生(クリスマス)、死(十字架)、復活(イースター)の福音は今、全世界に広まり、クリスチャンは増え広がり、今も聖書は世界で最も売れており、全世界七千の言語への翻訳が急ピッチで進んでいる(ウイクリフ聖書翻訳協会「ビジョン2025」)。「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられ、すべての国民にあかしされ、それから終わりの日が来ます(マタイ 24:14)」。私たちも、もっと真剣に必死にこの福音を伝えたい！「あなたは愛されています！」と。

❷導き入れられること…今私たちは「この恵み(5:2)」に立っているが、以前は、神の怒りの座にいた(1:18)。その神の裁きとは、「…彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され…情欲に引き渡された…(1:24-28)」とある。罪を持ったままの人は、悪魔(闇の力)に弄ばれ、罪に引きずられて神から遠く離されていく。その原因は、神を神としてあがめず、感謝もせず、救いを受けないから！御子イエスが世に来られたのは、世をさばくためではなく救うため！御子を信じない者は「すでにさばかれて」おり、彼らは「光が世に来たのに、光よりもやみを愛した(ヨハネ 3:17-19)」。しかしキリストを信じ従う者は、決して闇の中を歩まず命の光を持つ(8:11-15)！「この恵みに立つ(5:2)」と聞く時、自分が、神の怒りの座と恵みの御座のどちらに立っているかを確認する！「導き入れられた」とは、「王に拝謁させる／～の前に連れて行く」の意！私たちがイエス様を信じた時、その恵みの中に招かれ、「王の御前」にいる(ヘブル 4:16)！

★私たちは、信仰により、主イエス・キリストにより、招き入れられた、この恵みに、「今」立っているだろうか？過去の罪や失敗をウジウジくよくよしないで、前を向いて歩んでいるだろうか？あらゆる試練・困難・悲しみ・苦しみの道で、訓練され、成長し、恵みによって強くされているだろうか？恵みの御座に近く、日々主の近くを歩み、「素晴らしい恵みの主！素晴らしい恵みの人生だ！」と大いに喜んでいるだろうか？